

令和6年度 第58回 中学生の「税についての作文」

東京税理士会町田支部長賞

『目には見えない恩恵』

町田市立つくし野中学校 3学年 工藤 美結

税金で守られているものは何だろうか。

この問いに対する答えとして分かりやすいものが「安全」だと思う。道路がしっかり整備されていること。学校や施設の安全が保たれていること。災害に強いまちづくりが進んでいること。私たちの身の周りの安全は、多くが税金によって守られている。しかし、人々はその税金による恩恵への感謝を忘れていると感じる。それはなぜだろうか、と考えたときに、私は冒頭の問いに対するもう一つの答えを見つけた。それは、「安心」である。呼ぼうと思ったときに無料で救急車や消防車が呼べること。子どもの医療費が無料であること。子育てをサポートするサービス、施設が多くあること。これらは人々に、「もし何かあっても大丈夫だ」という安心感をもたらす。その一方で、安心が与えられていることで安全のありがたみを忘れてしまうという面もあると思う。安心は、人の心に余裕を持たせると同時に、油断をさせることもある。心に余裕ができることで、気にしていなかった部分の欠陥を感じたり、安全を当たり前だ

と思ってしまうたりするのではないか。そこで大切だと思うのが、「想像力を働かせる」ことだ。もし税金がなくなれば、救急車を呼ぶのにもお金がかかる。学校の備品が古くなり危険になる。今ある「当たり前」がなくなるといことがどれだけ不便で不安かということを確認すれば、税金のありがたみにも気づけるであろう。

また、私たちは税金を分かりやすく、目に見える形で納めることではない。商品を買えば自動的に税込みの値段が表示され、働いたことで得る給料からは自動的に税金が引かれている。自分たちがどれだけ税金を納めているか、それらがどのように使われているのかわからないという人も多いであろう。そのような人々が「税金は自分たちとは関係がない」という考えを生み、身近な税の恩恵に気づいていない状況ができてしまっているのではないか。

私たちは自分の納めている税金の大切さと、その税金による恩恵をもっと自覚していくべきだ。より多くの人々が税を前向きに捉えられるようになれば、社会全体の税の使い方もより良くなるはずだ。そのためには、目には見えない税金について興味を持ち、想像力を働かせていくことが大切だと思う。